

ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン接種を希望される 保護者の皆さんへ

ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン接種を接種される前に、必ずこの説明書をお読み下さい。

*ヒブ(インフルエンザ菌b型)ってなに？

ヒブとは、「ヘモフィルスインフルエンザ菌b型」という細菌のことです。冬に流行するインフルエンザの原因となる「インフルエンザウィルス」とは全く別のものです。

このヒブという細菌が、人から人へ飛沫感染し、鼻やのどに保菌され、これが病原菌となり、肺炎や喉頭蓋炎、敗血症などの重篤な全身性疾患を引き起こします。なかでも髄膜炎(脳や脊髄をおおう膜)に感染するヒブ髄膜炎は最も頻度が高く、予後が悪い病気です。多くの場合は、生後3か月から5歳になるまでの子どもたちがかかります。特に2歳未満のお子さんに最も多いので、注意が必要です。毎年全国で約600人の乳幼児がヒブ髄膜炎にかかっています。

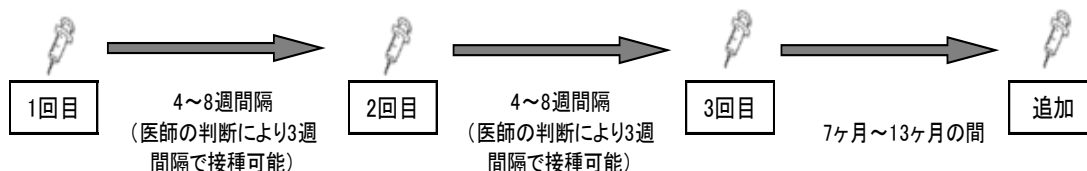
*ヒブワクチンについて

このワクチンは、製造工程にウシ成分(フランス産ウシの肝臓および肺由来成分、ヨーロッパ産ウシの乳由来成分、米国産ウシの血液および心臓由来成分)を使用しています。接種することで「伝達性海綿状脳症(TSE)」の感染リスクは理論上否定はできませんが、世界中で100か国以上が使用開始してからこのワクチンが原因でTSEに感染したという報告は現在までありません。WHO(世界保健機関)では、ヒブワクチンを1998年に定期接種ワクチンとして推奨しています。

*接種間隔について

【接種開始が生後2ヶ月～7ヶ月に至るお子さんの場合】

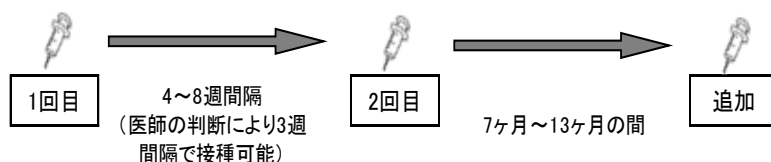
合計 4回接種



※3回目の接種は1歳未満までに完了すること。

【接種開始が生後7ヶ月～12ヶ月に至るお子さんの場合】

合計 3回接種



※2回目の接種は1歳未満までに完了すること。

【接種開始が1歳～5歳のお誕生日の前日までのお子さんの場合】

1回接種で終了

*決められた接種年齢、間隔で受けられない場合は定期外(任意接種)となり、費用が自己負担となります。

裏面もお読みください

***ヒブワクチン接種後の副反応について**

接種部位の局所反応として、発赤、腫脹、硬結、疼痛など、全身的な副反応として、発熱、不機嫌、食欲不振、下痢、嘔吐などが認められていますが、多くは一時的なもので、数日以内に消失します。

＜ワクチン接種後の注意＞

- 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師と連絡が取れるようにしておきましょう。
- 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなった時などは医師にご相談ください。
- このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6日以上の間隔をあける必要があります。なお、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

***次の方は接種を受けないでください。**

- 明らかに発熱している方(通常は37.5℃を超える場合)。
- 重い急性疾患にかかっている方。
- このワクチンの成分または、破傷風トキソイドによってアナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことがある方。
- その他かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方。

***予防接種健康被害救済制度について**

○平成25年4月より、ヒブワクチン予防接種は定期接種となりました。
ワクチン接種が原因により重篤な障害を残すなどの健康被害が生じた場合、厚生労働大臣が当該予防接種によるものと認定した場合、予防接種法に基づく健康被害救済制度があります。

○問い合わせ：飯塚市 子育て支援課 (電話) 0948-43-3305
(FAX) 0948-21-9508

*住民票のある市町村にお問い合わせください。